

じゅうにし
こたえ 十二支のはじまり

じゅうにし
十二支のはじまり (日本の昔話)

昔、神様が動物たちに言いました。

「一月一日の朝、わたしのところへ来た者から順に、十二番目までを、一年ずつの大将にしよう。」

牛は、自分は歩くのがおそいからと、前の日の夜のうちに出発しました。その牛のせ中に、ねずみがこっそりのつていました。

朝になり、牛が一番に着こうとしたとき、ねずみがせ中から飛びおりて、先に神様の前に着きました。

こうして、一番がねずみ、二番が牛となりました。ねこは、ねずみにうその日にちを教えられて、間に合いませんでした。それから、ねこはねずみをおいかけようになったということです。

① 神様は、何番目までを大将にすると言いましたか。

十
二
番目

② 牛が、前の日の夜のうちに出発したのは、どうしてですか。

ア 夜のほうがすずしいから。
イ 歩くのがおそいから。
ウ ねずみにたのまれたから。

③ 神様の前に着いた順に、□に1・2を書きましよう。

1
ねずみ

2
牛

④ ねこが間に合わなかったのは、どうしてですか。

ア ねぼうしたから。
イ ねずみに、うその日にちを教えられたから。
ウ 道にまよったから。